

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：未来やまなし政務調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名 未来やまなし 調査者 土橋亨、清水喜美男、古屋雅夫、笠井辰生
調査内容	1 調査目的 ・ 立行政法人 国立文化財団機構 奈良文化財研究所 文化財の発掘調査、保護、活用などをどのように研究されているか。 また、文化財の活用等について、情報発信されているかなどについて調査を行い、山梨県の歴史的文化、文化財を後世に伝える参考にすることを目的とする。 ・ NAFIC なら食と農の魅力創造国際大学校 「農場から食卓へ」のコンセプトのもと、実践の現場で役立つ技術・ノウハウを修得しながら、食と農の世界を支える人材を育成し、世に送り出しているユニークな教育現場を調査することを目的とする。 ・ 未来医療推進機構 Nakanoshima Qross 先進的な技術分野の産業化戦略と、産官学連携手法の調査を目的とする。 ・ 山梨県大阪事務所 今年夏には大阪万博も控え活気づいてきていると推測する大阪に、事務所を構える本県事務所の活動と実績やこれからの展望等について調査し、本県の発展に活かすことを目的とする。 ・ イワタニ水素エネルギーフォーラム大阪 山梨県の目指す水素エネルギー社会の実現に向け、水素の社会実装に関する企業・団体の取り組みの情報収集を目的とする。

	2 調査テーマ ・文化財の保護と継承 ・食と農の連携 ・先端医療分野の産業化に向けた産官学連携 ・山梨県・大阪事務所の活用 ・水素の社会実装の動向 3 調査期間 令和 7 年 3 月 24 日～令和 7 年 3 月 26 日（2 泊 3 日） 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 奈良県奈良市、奈良県桜井市、大阪府大阪市 5 その他
--	--

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

[調査テーマ] 文化財の保護と継承	[調査項目] 地域の文化財の保護及び継承 [選定理由] 山梨県内の<u>山梨県の文化財件数（R7. 2. 1 現在）1587 件</u> ◇有形文化財 877 件 ◇無形文化財 9 件、◇民族文化財 170 件、 ◇記念物（史跡・名勝・天然記念物 531 件 ◇重要文化的景観 179 件 近年では世界文化遺産として「富士山」が 2013 年 6 月登録され、日本人の自然感、文化感が世界に認められました。 こうした山梨県内の特性、文化財をどのように保護し保存していくか今を生きる私たちに課せられ責務、課題であると認識する。 当該研究所はこの分野で総合的研究をされており、富士山を含め山梨県内の文化財を保護、保存し、情報発信していくにあたり、多角的な視点から学ぶことができる調査地と考えた。
---------------------------------	--

〔調査テーマ〕 食と農の連携	〔調査項目〕 “農場から食卓へ” のプログラムと、実践ノウハウについて 〔選定理由〕 農作物の育成から食卓までの全ての過程において、プロを目指し、実践している実態は、本県にはない姿であるため 県行政と農業現場&技術確立、更には市場展開までの連携内容は、本県にとって、非常に参考になるため 農業分野に、経営マネジメント分野を融合したユニークな経営手法は、本県にとって、極めて斬新であるため。
〔調査テーマ〕 先端医療分野の産業化に向けた産官学連携	〔調査項目〕 産官学の連携手法と、拠点集積の効果、未来医療という先進的な技術分野の産業化に向けた人材・スタートアップ育成エコシステム創成の取り組みについて 〔選定理由〕 本県のメディカル・デバイス・コリドー構想の更なる推進の一助とするため。 産官学の連携による産業集積と人材育成エコシステムの構築に資する情報収集のため。

〔調査テーマ〕 山梨県・大阪事務所の活用	〔調査項目〕 山梨県・大阪事務所の活用について 〔選定理由〕 以前に会派の一部議員は東京都にある山梨県・東京事務所には訪れたことはあるが、山梨県・大阪事務所は存在を知るのみで訪れたことはなく、関東地域とは違う関西という風土の中でどのような活動を行っているのかを知るために選定した。
---------------------------------	--

〔調査テーマ〕 水素の社会実装の動向	〔調査項目〕 水素を巡る最近の動向や、企業・団体による水素の社会実装の取り組みについて 〔選定理由〕 やまなし水素エネルギー社会実現ロードマップの進捗と比較検討するため。 グリーン水素の生産コスト削減に必要な、需要拡大に関する情報を得るため。
----------------------------------	--

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
地域の文化財の保護及び継承について	〔都市（市町村）名・施設名・担当者名〕 奈良県奈良市 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡研究室 〔選定理由〕 奈良県は日本の中でも文化財の宝庫地であり当該研究所は多彩な専門分野の研究者が実物に即した文化財の総合研究を行い、その成果を文化財の保護行政に役立てること等から「独立行政法人 国立文化財機構奈良文化研究所」を選定した。
“農場から食卓へ”のプログラムと、実践ノウハウについて	〔都市（市町村）名・施設名・担当者名〕 奈良県桜井市、NAFIC なら食と農の魅力創造国際大学校 学科長 〔選定理由〕 ① 県立大学でありながら、食物生育、技術力向上、地域活性化、更にはマーケットまでを包含した持続可能なプログラムの実践は、今後の大学のあるべき姿であり、見習うべき内容である。 ② 学校経営の視点や、人材育成の視点、更には、具体的実践プログラムの視点が、常に「世界」を目指しており、今後に大きな期待が持てる。

産業界・医療界からのニーズを双方向で検討しながら課題解決する手法と、人材・スタートアップの育成、未来医療の社会実装に向けた取り組みについて	[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 大阪府大阪市、未来医療推進機構 Nakanoshima Qross 広報部 総務課 [選定理由] 未来医療の社会実装の拠点を掲げた、新しい施設であるため。また本施設には国内の水素関連企業のトップランナーである岩谷産業も入居しており、京都大学 i P S 細胞研究財団や大阪大学なども加わり、産学連携を実践しているため。
山梨県・大阪事務所の活用について	[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 大阪府大阪市、山梨県 大阪事務所 所長 [選定理由] 今年夏には大阪万博も控え活気づいてきていると推測する大阪に、事務所を構える本県事務所が関西・中京以西の山梨県行政の総合窓口として大阪にあるため。
水素の社会実装の動向	[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 大阪府大阪市、グランフロント大阪 イワタニ水素エネルギーフォーラム [選定理由] 水素のリーディングカンパニーである岩谷産業の主催で、様々な企業・団体の取り組み事例が得られるため。 資源エネルギー庁の水素・燃料電池戦略室長による水素を巡る最近の動向の講演があるため。 開幕間近の大阪・関西万博における水素関連の取り組みの情報得られるため。

5 調査内容

○調査テーマ：(文化財の保護と継承)

調査項目	地域の文化財の保護及び継承について		
調査都市等	奈良県奈良市 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所	調査日	3月24日
調査結果概要	1. 文化財の体系とは・・・有形、無形、民族、」記念物、」文化的景観、伝統的建造物群、埋蔵文化財がある ① 法律は<u>史跡、名勝、天然記念物の保存法(1919)</u>と<u>国宝保存法(1929)</u>の統合・拡充による「文化財保護法」1950年に制定 ② 史跡等の整備について ・「保存」「管理」を行うための施設の設置及び復旧・修理をはじめ、来訪者に向けての適切に「公開」「活用」する上で必要となる遺跡の表現、修景、利益等の諸施設の設置を含めた総合的行為と、とらえらとされているが、文化財保護法上の規定はない！ ③ 史跡等の保護は保存と活用 史跡等の保存は、i) 法的措置・史跡の指定、ii) 行政措置・指定地の土地の公有化、」保存活用計画の策定など、iii) 技術的措置・保存施設、防災施設の設置、伝統技術の継承、日常的な維持管理の措置等 2. 平城宮跡の研究と保存の歴史 (1) 平城宮跡 ①平城京(710～784)現在の奈良市と大和郡山市にまたがる古代の首都。 中国の長安城を手本に、大小の道路で基盤目状に区画整理した。 ・平城宮は都の中央北端にありました。 ・平城京の正門である羅城門から平城宮の正門である朱雀門まで 7 幅 75M 街路樹に柳、槐が植えられていた。 ・人口 10 万人内、約 6 5 0 0 人が平城宮の官人。 (当時の日本の人口 6 0 0 万人) 現在の 20/1 平城京はいかに巨大都市であったがわかる。 (2) 平城京の保存運動 ・初期の保存運動(明治 28 年～大正 2 年) 棚田嘉十郎及び溝辺文四郎らにより行われた。		

	・後期は 1963 年に奈良県が管理団体となる。 1965～1968 年奈良県が土壇の修復、盛土張芝、円路造成 1968 年 文化庁、遺構展示館建設 1969 年 文化省庁 平城宮跡資料館建設等・・・ (3) 奈良研究所による整備 (1970～2000 年 ・<u>奈良国立文化へ研究所が、以前の文化庁奈良県による整備と管理を引き継ぐ</u> ・平城宮発掘調査部に計測修景調査室設置、専門職を置き施行 ・園路設置、高圧線、通信選の埋設土塁の造成、西面南門・西面中門の基壇整備、大膳職跡での建物表示、内浦築地回廊・東楼表示等が行われた。 (4) 現在 特別史跡平城宮保存整備構想に基づく ・第一次大極殿院の整備地区の位置づけ ・第 2 次整備段階⇒中核施設としての大極殿院地区の復元など 国土交通省による整備 ・国営飛鳥・平城宮跡歴史公園等の基本設計 古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡保存と活用を通じて「奈良時代」今に感ずる空間の創出を目指している。 □山梨県県における活用策等について ・<u>山梨県の文化財件数 (R7.2.1 現在) 1587 件</u> ◇有形文化財 877 件 ◇無形文化財 9 件、◇民族文化財 170 件、 ◇記念物 (史跡・名勝・天然記念物 531 件 ◇重要文化的景観 179 件 ○地域別文化財件数は、①身延町 173 件、②甲州市 154 件、④北杜市 149 件、⑤笛吹市 136 件とこの 5 自治体に全体の約 40%の文化財が集中しており、当該自治体はもとより県と自治体等の連携強化は不可欠であり、奈良文化財研究所での調査、研修成果を、今後山梨県内の文化財の保存・活用を通じ、地域の活性化対策、また文化財の保護活動、加えて防火・防災対策の充実に取り組み、県民等に対し情報発信による情報提供を促進していきます。
--	---

○調査テーマ：(食と農の連携)

調査項目	“農場から食卓へ” のプログラムと、実践ノウハウについて
------	------------------------------

調査都市等	奈良県桜井市、NAFIC なら食と農の魅力創造国際大学校	調査日	3月25日
調査結果概要	NAFIC が育成を目指す、技術力、経営マネジメント力、マーケティング力などの「5つの力」は、まさに「農」を経営と捉えた新しい考え方であり、本県にとっては、全く未知の分野のため、今後大いに参考にしていきたい。 「フードクリエイティブ学科」&「アグリマネジメント学科」の内容と実践プログラムは、常に「世界」を視野に入れて編成されており、従来からの大学のイメージを根底から覆す教育が実施されていた。今後大いに参考にしていきたい。		

○調査テーマ：(未来医療の社会実装に向けた産官学医の連携)

調査項目	産業界・医療界からのニーズを双方向で検討しながら課題解決する手法と、人材・スタートアップの育成、未来医療の社会実装に向けた取り組みについて		
調査都市等	大阪府大阪市、未来医療推進機構 Nakanoshima Gross	調査日	3月25日
調査結果概要	未来医療国際拠点 Nakanoshima Gross は、大阪大学の医学部キャンパスが移転した跡地に整備された複合施設で、地上16階、高さ86m、延べ床面積は約57,000㎡ある。 大きく3つのエリアに分けられ、1・2階は「未来医療の共有」を謳うカンファレンスセンターおよび交流ラウンジの「中之島国際フォーラム」、東館は「未来医療の創造」を謳う産学医連携の複合研究施設「未来医療R&Dセンター」、西館は「未来医療の実践」を謳い病院・診療所が入居する複合医療・健診施設「未来医療MEDセンター」で構成されている。 大阪府と民間企業21社の出資による未来医療推進機構が運営し、現在は48企業・団体・医療機関が入居している。京都大学、大阪大学、iPS細胞研究財団などの連携による再生医療の先進的研究と併せて、ゲノム医療や人工知能(AI)、IoTの活用など先端医療に対応した治療が受けられる医療機関も含まれ、相互の連携で実用化を進める。 医療機関や製薬会社、機器メーカー、大学研究室や行政が一か所に集まり、人材・スタートアップ育成の循環を図る、育成エコシステムを目指している。		

	「イワタニファインガス」では液体水素の保管と輸送、併せて生体サンプルなどの超低温輸送などの説明を頂いた。 「日立プラントサービス」では、VRを利用した研究者の技量支援システムなどを視察した。 「大阪滋慶学園・滋慶医療科学大学大学院」の教育・研究開発センター（滋慶中之島センター）では、細胞培養室、クリーンルーム、暗室、低温室などが設置された実験室エリアを所長に案内して頂いた。 人材育成エコシステムや、スタートアップ支援の具体例はまだこれからとのことだが、山梨県が目指す取組みとの共通点も多く、異業種の技術者、研究者が共通の目標の下に近い距離で交流して情報を交換し、人材育成エコシステムをつくる手法は本県においても様々な分野にフィードバックしていきたい。
--	---

○調査テーマ：（山梨県・大阪事務所の活用）

調査項目	山梨県・大阪事務所の活用について		
調査都市等	大阪府大阪市、山梨県 大阪事務所	調査日	3月26日
調査結果概要	大阪市北区梅田 1 丁目という大阪駅前の一等地のビル内に所在している山梨県・大阪事務所は、ビル内に入ると大阪事務所が入居する 21 階までの道順が分かりづらく迷いながらの到着となりました。 印象としては来訪しやすい雰囲気ではなく、例えば一ヶ月に一体どれくらいの来訪者がいるのであろうかと、気になるところである。 短い滞在期間ではありましたが、堀内所長から山梨県・大阪事務所の概要等について聞き取りと意見交換をし、山梨県・大阪事務所の更なる活用のために以下のことを提案し、本県に戻ってから問題提起をしたいと思います。 ・山梨県人会や山梨県出身者が在籍する企業を辿り、活発な対外 PR をしてはどうか？ ・富士山が近い自然に囲まれた暮らしの良さを宣伝し、移住・定住につなげる新しい工夫をしてもらいたい。 ・日本一の桃や葡萄の産地として県産果実の知名度、美味しさを広める販売促進の拡充。農林水産省令和 6 年産 葡萄の結果樹面積、収穫量及び出荷量調べによると、大阪府から山梨県よりも近い岡山県は全国 3 位とあり、府民の間でも大阪府では葡萄の産地といえ、岡山県という声も多いそうだが、山梨県産葡萄も素晴らしい新品種があるので是非、		

	山梨県・大阪事務所からも活発な情報発信を期待しつつ、本県議会からも後方支援を模索したい。
--	--

○調査テーマ：（水素の社会実装を巡る最近の動向）

調査項目	水素を巡る最近の動向や、水素の社会実装について		
調査都市等	大阪府大阪市、グランフロント大阪	調査日	3月26日
調査結果概要	フォーラムは、水素関連企業や自治体の関係者ら約650人が参加して開催された。会場では冒頭、大阪・関西万博の海上運航に使用される、国内初の旅客運航向け水素燃料電池船「まほろば」が映像で紹介された。 講演では、資源エネルギー庁の水素・燃料電池戦略室長による水素を巡る最近の動向をはじめ、大阪・関西万博での脱炭素の取り組みや、カーボンニュートラル・水素普及に向けた企業の取り組みなど、様々な事例が紹介された。社会実装における課題や今後の方向性など、水素立県を標榜する本県にとって参考になる知見を得ることができた。 本県としても、水素活用の普及促進に向けた国の動向を注視しながら、着実なノウハウの蓄積と水素関連産業の育成を図っていく必要がある。		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
土橋亨	今回の会派県外調査は、奈良県と大阪府を中心となりました。 ・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 文化遺産部遺跡研究室 内田和伸博士の説明を聞き、現地を案内してもらい、古墳や縄文文化など日本古来の文化財を守っていく為の研究調査に日々尽力されている職員の皆さまの熱意に感動し、本県との交流も益々活発になることを期待したい。 ・NAFIC なら食と農魅力創造国際大学校 農業大学校は各地にあるが、料理や経営の学科など「食と農」に関わるが多岐に渡り学べ、「地産地消」も大切にしている大学校は日

	本唯一ということで多角的な学びの勉強になりました。 ・山梨県・大阪事務所 現存の大阪事務所がどのように県人会に関わっているのか、一番気になることであり、他にも観光促進や企業誘致活動など本県の為の大阪の活動を、対面して聞き取りと意見交換ができたことは良かった。 私の意見としては、もっと発信を活発にして存在意義を高めて欲しいと感じた。 ・イワタニ水素エネルギーフォーラム大阪 水素活用について水素燃料電池の世界は運航時のCO2排出量はゼロ。エンジン駆動の大きな振動や燃料のにおいもなく快適な乗り心地であり、保守点検もより安全にできると聞き、水素燃料電池船「まほろば」に実際に機会があれば乗ってみたいと感じた。 これからさらに研究も進み、地球や人類すべての生物に優しいクリーンエネルギーの推進を見守りたい。
清水喜美男	今回の研修では、「本県には無い」又は「本県が考えていない」内容に数多く触れることができ、今後「新しい山梨県」を創造する上で大変有意義な研修であった。その最重要ポイントは下記の内容である。 (1) 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 ⇒歴史・文化・自然を、高度な専門的立場より総合的に研究しており、その運営システム全てが見習うべき内容であった。 (2) NAFIC なら食と農の魅力創造国際大学校 ⇒料理人と経営者の両方を備えた国際的人材育成を実践しており、新しい教育の在り方につき、見習うべき内容であった。 (3) 未来医療推進機構 中之島クロス ⇒産官学金医の連携共同体が1つ屋根の下に集積した、近未来志向の産業化拠点であり、本県が目指す姿がそこにあった。 (4) 山梨県・大阪事務所 ⇒関西・中京以西における企業誘致活動や移住・定住促進、県産品販路拡大など、多岐に渡る課題などにつき確認ができた。 (5) イワタニ水素エネルギーフォーラム ⇒世界最先端の水素政策や事業化動向、今後の方向性など、今後の議員活動に非常な有益な情報を得ることができた。

古屋雅夫	＝奈良県、大阪府内の県外調査（５ヶ所）を振り返り＝ ① 奈良文化研究所で研究者の立場から「内田和伸」博士が説明、現地案内をして頂きました。縄文王国と言われ多様な文化を保有している本県にとっても大変参考になりました。 ② 「未来医療推進機構中島クロス」は他に類を見ない未来医療の産業の拠点であり、「産・官・学・医」の連携による取り組みに大いに期待すると同時に、本県が取り組んでいる「メディカル・デバイス・コリドー構想」（医療関連産業）とのマッチングができないものかと強く感じました。 ③ 未来の「食」と「農」のを担うリーダー・料理人と経営者の人材育成に取り組むユニークな学校。斬新的な発想は、「自立し店を持ちたい」との目的とマッチングできる教育機関に感銘、参考になりました。 ④ 大阪事務所での意見交換では、山梨県への移住・定住や観光の促進、企業誘致活動、県品産の販路拡大など多岐にわたり現状を把握することができ、今後の県政に活かしていきたい。 ⑤ 本県が将来の産業として期待し、取り組んでいる「水素・燃料電池産業」。その推進に取り組む民間企業が主催する「イワタニ水素エネルギーフォーラム」大阪に参加しました。特に水素燃料電池船「まほろば」の実用化は、（2025 大阪万博会場を結ぶ運航船）水素を活用した次世代の交通機関の燃料として、また環境にやさしい社会の実現に向け大いに期待できものと感じました。
笠井辰生	奈良文化財研究所は日本の文化を守る重要な役割を担っており、国には予算をもう少し充実させて欲しい。平城京跡を訪れている人が案外少なかったが、朱雀門から大極殿を眺めるときに、間に近鉄電車が通っているのはこの歴史公園の価値を下げておりもったいない。貴重な歴史遺産を守り後世に残すには目先の費用だけではなく、長い目で見た投資効果を山梨市出身の奈良県知事には考慮して頂きたいと思う。既存の歴史・観光・文化などの資源をいかに活かすかを山梨にもあてはめて考えたい。 NAF I Cは、農業大学の農作物生産と、調理という食材加工の教育・研究を組み合わせた発想が素晴らしい。調理の学科が定員割れというのはやや意外だが、今後卒業生の生産者と料理人との連携の事例が広がれば、学校の魅力も一層増すのではないか。一般の調理学校より素材を見る目が磨かれ、経営の勉強もできるというのはとても魅

	力的な学び舎だと思う。本校のような一つの学校でなくとも、農業系の学校と調理系の学校が連携することで同様の相乗効果を高められないかは、山梨県においても考えたい。 中之島クロスにはぜひ世界をリードする再生医療、ゲノム医療の人材輩出を期待すると共に、医療産業の分野での大阪と山梨の連携が進められないか考えたい。 山梨県の大阪事務所には、県人会のネットワークを県内の高校・大学の同窓会とも結びつけ、また県出身の飲食店などとも繋げる取り組みをぜひ推進して頂きたい。県人会の盛り上がりが県内への観光・移住促進や県内の活力向上につながるよう考えたい。 水素フォーラムでは、水素エネルギーにかかる期待の大きさと共に、社会実装の進展を劇的に後押しするブレイクスルー技術が国内でぜひ生まれて欲しいとも感じた。山梨の人材育成のエコシステムが水素産業の分野でも成果をだせるよう考えたい。 大阪・関西万博の開催を控え、未来への投資に力をいれる大阪の活気と、歴史的遺産を守りつつ新たな組み合わせで相乗効果を図る奈良の発想力とに倣って、本県の活性化に取り組みたい。
--	--

6 調査状況（写真）

○R7年3月24日 調査先（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所）



○R7年3月25日 調査先（NAFIC なら食と農の魅力創造国際大学校）





○R7 年 3 月 25 日 調査先（未来医療推進機構 Nakanoshima Qross）





○R7年3月26日 調査先（山梨県・大阪事務所）



○R7 年 3 月 26 日 調査先（イワタニ水素エネルギーフォーラム大阪）

